

第2学年 算数科学習指導案
令和7年6月 日(金)第5校時 授業者:

1. 単元について

単元名	100より大きい数（全11時間）
本単元の目標	1000までの数について、構成、表し方、読み方などを理解し、数を10や、100を単位として相対的にみるなど多面的に捉え、数の表し方や読み方などを生活や学習に生かすことができる。
本単元で用いる 主な見方・考え方	・数の表し方や大小比較などについて、十進位取り記数法の仕組みに着目したり、既習の数から類推したりすること。 ・数を、10を単位として相対的にみるなどして、多面的に捉えること。
学習指導要領より	〈A(1)〉 数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア(ア)同じ大きさの集まりにまとめて数えたり、分類して数えたりすること。 （イ）4位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について理解すること。 （ウ）数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。 イ(ア)数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活に生かすこと。
教材について	本単元は、第2学年の内容A(1)数の構成と表し方に基づく単元である。第1学年では、120程度までの数について、数のまとまりに着目し、数の書き方や読み方、数の順序や大小について学習してきた。本単元では、数の範囲を4位数まで広げて、十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小、順序などについて知り、数についての理解を深める。 本単元で大切にしたい数学的活動は、十進位取り記数法の理解を深めるために3位数を0～9の10種類の数字を使い、より大きな数を表そうとする活動である。十進位取り記数法では、「一の位」「十の位」「百の位」というように数字を書く場所を決めることで大きさを表し、0～9の10種類の数字だけで表すことのよさを体験的に学べるようにしていく。
児童の実態	本学級の児童は、どの児童も「学校が楽しい」と感じ、その理由に、遊び以外でも学習を挙げる児童もいる。人数が少ないこともあり、1時間の授業の中で全員が発言したり、活動したりする場面が多く、出番が多いことが要因と考えられる。一方で、相手の話を注意して聞けなかったり、姿勢の保持ができなかったりするため、仲間の発言を部分的に捉えたり、集中力が1時間もたなかったりすることも見られる。 1年時のCRTテストの結果では、算数の得点率は、全国を100とすると知識が87、思考が78であった。その中でも、数の大小の比較が苦手な傾向にある。準備テストの数を数える問題では、10のまとまりで困っている児童は5人であった。10を10こあつめた数を答える問題では5人が100と答えた。 数の大小比較、構成の学習は、今後の学習の基礎となる大切な学習である。ペアでの教え合いや意見の交流を位置付け、自分の考えを整理したり、仲間の発言から考えを深めたりする場を設けていきたい。
本単元に関わる 既習内容	「10のまとまり」 「10が10こで100」

2. 研究内容の視点から

2. 指導過程の工夫

(1)児童自らが解決したいと思える課題設定の在り方

- ・本時では、自分がどれだけクリップを取ることができたかを数える活動をすることで、具体物を数えてみたいという興味関心をもてるようにする。
- ・予想した数が「〇個」とはっきりしないことから、パッと見て数が分かるようにするにはどうしたらよいかを児童自ら疑問に思えるようにする。

3. 単元指導計画

時	1(本時)	2	3	4	5
本時の目標	100より多い具体物をくふうして数える活動を通して、10のまとまりや100のまとまりでまとめることで、3位数も数えやすくなることに気づき、3位数以上の数を表すには、十進位取り記数法の考えを用いていけばよいことがわかる。	3位数の構成を理解し、数えたり、表したり、読んだりすることができる。	空位のある3位数の構成を理解し、表したり、読んだりすることができる。	10を10個以上集めた数を、何百何十と捉えることができる。	何百何十を10のいくつつ分と捉えることができる。
問題	クリップはなんこあるでしょう。	クリップはなんこあるでしょう。	おり紙の数を数字で書きましょう。	10を13こあつめた数はいくつですか。	160は10をいくつあつめた数ですか。
課題	パッと見ただけで分かるおき方を見つけよう。	クリップの数をすう字で、書いてみよう。	3けたの数で10のまとまりがないとき、どのようにあらわせばよいかな。	10を10こよりたくさんあつめたときの数は、なにをつかえばあらわせられるかな。	100より大きい数が10のいくつつ分かをあらわすには、どうすればよいかな。
交流	④クリップの置き方 ⑤ペア交流	④数字の表し方 ⑤ペア交流	④数字の表し方 ⑤ペア交流	④10、100のプレート操作 ⑤ペア交流	④10、100のプレート操作 ⑤ペア交流
まとめ	100のまとまり、10のまとまり、ばらのじゅんにかぞえると、パッと見ただけで分かりやすい。	100より大きいかずも、1年生でならった書き方をつかえば書ける。	十のまとまりやばらがなく、十のくらいや一のくらいは0と書く。	10が10こ分で100をつかえばあらわすことができる。	100は10の10こ分をつかえば、あらわすことができる。
かぎカード	100のまとまり	100のまとまり・10のまとまり・ばら	100のまとまり・10のまとまり・ばら	10が10こで100になる	100は10の10こ分
評価規準	(思考・判断・表現) 既習の2位数の表し方から類推して、3位数の表し方を考えている。 100をつくる時と同じように100より大きい数を捉えるには、10のまとまりを10個集めて100のまとまりをつくれればよいと考えて任意の単位でまとめている。 【数を数えている場面】	(知識・技能) 3位数の数え方・構成・表し方を理解し、表したり、読んだりすることができる。 (思考・判断・表現) 既習の2位数の表し方から3位数の表し方を考えている。 【位取り・練習問題】	(知識・技能) 空位のある3位数の構成や表し方、読み方を理解し、表したり、読んだりすることができる。 【位取り】	(思考・判断・表現) 10を単位として数を構成したり、相対的にみたりしている。 (知識・技能) 10を10こ以上集めた数を表すことができる。 【プレート操作・練習問題】	(思考・判断・表現) 10を単位として数を構成したり、相対的にみたりしている。 (知識・技能) 何百何十を10を単位として表すことができる。 【プレート操作・練習問題】

時	6	7	8	9	10	11
本時の目標	数直線の読み取りを通して、3位数の順序、系列を理解する。	3位数の大小比較の仕方を理解する。	1つの数を多面的にみることを通して数感覚を豊かにする。	1000の構成や大きさ、表し方、読み方を理解する。	何十同士の加法で、繰り上がりのある計算や、百何十から何十をひく減法で、繰り上がりのある計算をすることができる。	基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。
問題	□にあてはまる数を書きましょう。	とく点の多いじゅんにいましょう。	270という数をいろいろな見方であらわしましょう。	「・」の数を数字で書きましょう。	80円の牛乳と50円のクッキーを買います。合わせて何円になりますか。	たしかめもんだい
課題	数の線をつかって、いろいろな数を読みとろう。	3けたの数は、どのようにくらべるとよいでしょう。	270を今までのかんがえ方をつかって、あらわそう。	1000を今までの考え方を使って表そう。	80+50は、どのようにはけいさんすればよいだろう。	たしかめもんだいに取り組む。
交流	㊦数直線の読み取り ㊧ペア交流	㊦大きさの比べ方 ㊧ペア交流	㊦270がどのような数か ㊧ペア交流	㊦100のまとまりがいくつか ㊧ペア交流	㊦計算 ㊧ペア学習	
まとめ	数の線を読むときは、1目もりの大きさをしらべ、大きな目もりをつかいないがら数えるとよい。	3けたの数は、上のくらいからじゅんにくらべるとできる。	今まで学しゅうしたことをつかってあらわすことができた。	1000も今までの学しゅうを使って表すことができる。	10のいくつ分と考えれば、今までのけいさんでできる。	
かぎカード	1目もりの大きさ	上のくらいからくらべる	100のまとまり・10のまとまり	100を10こで1000(千)	10のいくつ分	
評価規準	(知識・技能) 数直線の仕組みを理解し、数直線上に表された数を読んだり、数直線上に数を表したりすることができる。 【練習問題】	(知識・技能) 数直線の仕組みを理解し、数直線上に表された数を読んだり、表したりすることができる。 【練習問題】	(思考・判断・表現) 3位数の数を多面的にみて表している。【練習問題】	(知識・理解) 1000の構成や大きさ、表し方、読み方を理解している。【練習問題】	(知識・技能) 何十と何十の加減の計算の仕方を理解し、計算できる。 (思考・判断・表現) 10を単位とした数の見方に着目し、計算の仕方を考え、説明している。	(知識・理解) 「何十」+「何十」の加法及びその逆の減法の計算ができる。また、1000までの数を数えたり、表したり、読んだりすることができる。

4. 本時のねらい

100より多い具体物をくふうして数える活動を通して、10のまとまりや100のまとまりでまとめることで、3位数も数えやすくなることに気づき、3位数以上の数を表すには、十進位取り記数法の考えを用いていけばよいことがわかる。

5. 本時の展開 (1/11)

	学習活動	指導・援助
つかむ	<p>1. 既習事項の確認 ○教師のすくったクリップの数を予想させる。 ・自分ですくったクリップの数を数えることを伝える。</p>	<p>・数を予想することによって、今まで数えたことのある数よりも多くの数を数えることの見通しをもてるようにする。</p>
考える	<p>2. 問題をとらえる クリップはなんこあるでしょう。</p> <p>○数を予想する。 ・とにかくたくさんある。 ・100個より多そう。</p>	<p>【研究内容2(1)】 ・始めに教師がすくったクリップの数を予想させることで、自分もすくってみようという興味関心をもてるようにする。 ・教師がすくったクリップをばらばらに置いて数を予想させることで、もっと見やすい置き方はないかという思いをもち、自分のすくったクリップを、誰が見ても分かりやすい置き方にするにはどうしたらよいかという課題意識をもてるようにする。</p>
考える	<p>3. 課題を設定する パッと見ただけでわかるおき方を見つけよう。</p>	
深める	<p>4. 個人追究によって自分の考えをもつ ○机の上に並べてみる。 ・10を10こあつめると100になるよ。 ・100のまとまりをつくろう。</p> <p>5. ペア交流によって自分の考えを広める ○どのようにクリップを置いたかをペアで話し合う。 ・10のまとまりを作ってみた。 ・100のまとまりと10のまとまりとばらに分けてみた。</p> <p>6. 全体交流によって自分やペアの考えを広めたり、自分の考えを深めたりする。 ○ペアで話し合った分かりやすい置き方を発表する。 ・10のまとまりを作っている。 ・100のまとまりも作っている。 ・100と10のまとまりにすると分かりやすい。 ・「大きな数」の学習でも10のまとまりを作った。</p>	<p>・パッと見て分かりやすいかを机間指導で繰り返し問うことで、工夫して数えることを意識できるようにする。 ・つかみ取った数を交流するのではなく、どのように工夫して置いたかを話し合わせることで、課題に立ち返る。 ・「1年生で習ったことを使えそうかな。」と伝えることで、10のまとまりをつくることや、10が10個で100になることを想起させる。 ・10と100のまとまりで数えている児童に、なぜそのようにまとめたか聞くことで、10のまとまりや100のまとまりへの意識をつけるようにする。</p>
まとめる	<p>7. まとめる 100のまとまり、10のまとまり、ばらのじゅんにおくと、パッと見ただけでもかぞえやすい。</p> <p>○自分のすくったクリップの、100がいくつ、10がいくつ、1がいくつあるかを確認する。 ・私のクリップは、100が○つ、10が○つ、1が○つだった。</p>	<p>評価規準 (思・判・表) 既習の2位数の表し方から類推して、3位数の表し方を考えている。 100をつくるときと同じように100より大きい数を捉えるには、10のまとまりを10個集めて100のまとまりをつくれればよいと考えて任意の単位でまとめている。 【数を数えている場面】</p>
ふりかえる	<p>8. 振り返りをする【◎○△で自己評価する。】 ①パッと見て分かりやすいおき方をいっしょうけんめい考えることができたか。 ②クリップを100と10とばらのじゅんにおくと、かぞえやすいことがわかったか。 ③自分の意見をペアに話したり、なかまのいけんを聞いたりすることができたか。</p>	